

スタンフォード大学海外派遣研修に参加して

新潟大学医歯学総合病院 能登 義幸

今回、海外派遣研修に参加した目的は2つあります。1つ目は、スタンフォード大学で行われている最先端の研究内容を知り、そこから研究に対する姿勢や方法論を見つめなおすことでした。その成果は僕にとっては十分すぎるものでした。スタンフォード大学では、多科・他業種に亘って一つの研究を行っており、研究を単科で行うことの多い日本とは大きく異なっていました。他科との協力がよりスムーズに行うことができると、よりよいものを作り上げられるのではないかと感じました。また、Molecular Imagingの可能性や展望を今回の研修により学んだことはすごく大きな意味があったと感じています。この場で感じたことを心に留め、今後の活動に励んでいこうと思います。

2つ目は、米国での放射線技師の立場や技師制度の違いを学ぶことでした。海外における病院での放射線技師の立場はどのようになっているのか、また、そこに働く方々の職場の環境はどのようになっているのかを知ることができれば、現在自分が置かれている環境を照らし合わせることで、診療放射線技師という仕事を改めて見つめなおすきっかけとなるのではないかと考えたからです。研修期間中、病院内の見学をあまり多くできなかつたため、その職場環境を知ることがあまりできませんでしたが、技師の方々とお話を得る機会があったことはとても有意義でした。アメリカの技師はとてもシステムティックな印象でしたが、誰が検査しても常に同様な画像情報を提供できるシステムを構築している点は見習うべき点ではないかと感じました。また、専門化することにより、質を高めることはできるが知識の偏りが生じてしまうといったメリット・デメリットがあり、その改善を図ることにより、日本における専門技師制度がよりよい方向へ向いていくのではないかと感じました。

今回の研修で得たことは、ここの場には書ききれないほどあります。これらの経験などをどのように生かしていくかがこれからの新しい課題ではないかと考えています。ここで学んだことを生かせる場面、生かさなければならぬ場面に遭遇した際、その経験を無駄にしないように、日頃から心がけていきたいと思っています。

最後に海外研修を企画していただいた日本放射線技術学会、スタンフォード大学、GEYMSの関係者の方ならびに快く送り出してくれた新潟大学医歯学総合病院放射線部のスタッフに感謝いたします。



Stanford Imaging Centerにて
VOLNEY VAN DALSEM M.D.と一緒に